

子供に教えるための

# 幕屋の説明

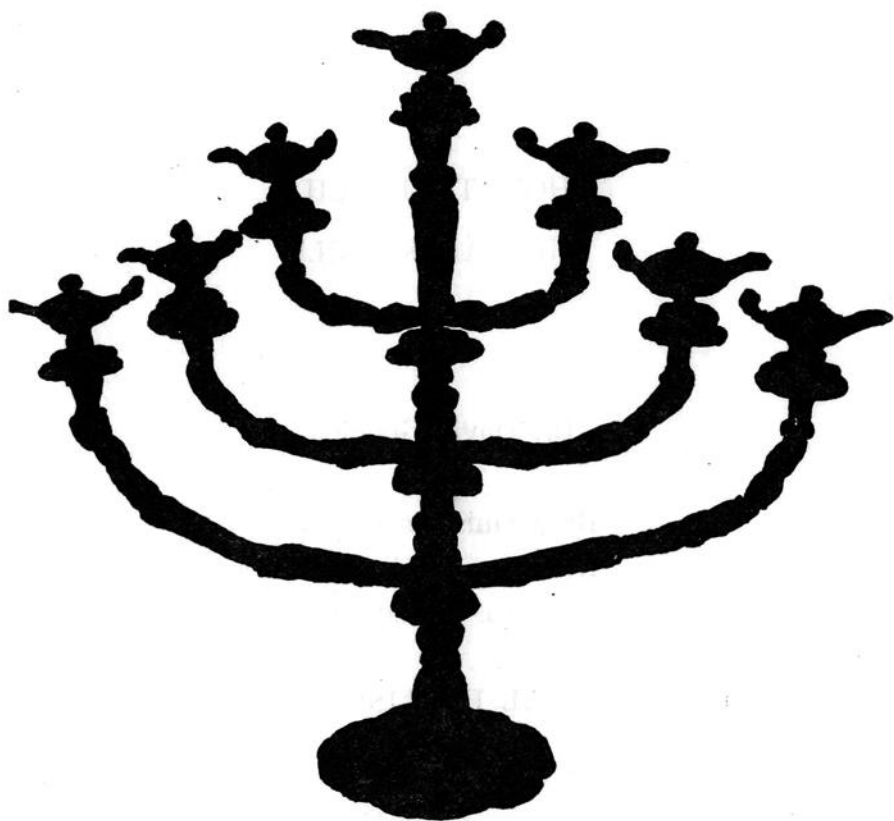
ダビデ・グッディング著



子どもに教えるための

# 幕屋の説明

ダビデ・グッディング著



伝道出版社

HOW TO TEACH  
THE TABERNACLE

by

Dr. David Gooding

By permission of  
Everyday Publications Inc.  
Toronto, Canada.

EVANGELICAL PUBLISHING DEPOT,  
Tokyo, Japan.

## 目次

第一課	幕屋	1
第二課	全焼のいけにえの祭壇	6
第三課	洗盤	11
第四課	香をたく壇	17
第五課	垂れ幕	22
第六課(第一部)	あかしの箱と贖いのふた	29
第六課(第二部)	大祭司	36
第七課	燭台	43
第八課	机	49
結びの課		54

## 序 文

幕屋に関する神の指図は非常に長く、出エジプト記に約十六章もあります。その上、ヘブル人への手紙九、十章にも、これらのことについて長い説明が述べられています。その九章二十三節によりますと、幕屋は「天にあるものにかたどったもの」です。こういうわけで、幕屋の教えはすべてのクリスチャンにとって大切です。

しかし、このように詳細に述べられている幕屋の話、日曜学校の子どもたちに教える必要がどこにあるのでしょうか。あの昔の礼拝堂のむずかしい細かな部分に子どもたちは興味を示すでしょうか。彼らに教えるのもあまり益にはならないのではないのでしょうか。私たちはこう思いがちですが、実はそうではありません。

幕屋は聖書の根本の教えであり、神から与えられたりっぱな実例です。ですから、日曜学校や子ども集会などで教えている信者が幕屋のことをうまく説明するなら、旧約聖書と新約聖書の相互の

関係を示すだけではなく、神の定めた救いの道を知りやすく教えることができます。

この「子どもに教えるための幕屋の説明」という本は、そう教えたいと願っている信者たちのために書かれたものです。

著者のダビデ・グッディング兄は、イギリス、スコットランド、北アイルランドの諸集会によく知られている方です。また、愛兄は、北アイルランドのクインズ大学で旧約聖書の七十人訳の教授を務めています。彼はその道の専門家として世界中に知られています。

伝道出版社は、日本の皆さんにグッディング兄の著書喜んで紹介したいと思えます。これは、日曜学校の子どもたちのために、興味あるいくつかのレッスンの材料となるにちがいありません。

神の祝福がこの印刷物と愛する皆さんの伝道の働きの上にありますよう祈りつつ、この小さな本をお贈りいたします。

# 第一課

主題聖句 出エジプト記二五・八

「彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。」

## 幕屋

導入 何人かの子どもに、キャンプに行ったことがあるか、テントで寝たことがあるか聞いてみると。この課では、神が泊まられたテント（幕屋）と、なぜそこに行かれたかの理由を勉強します。

幕屋の記述 出エジプト記二六章

中心的な教え

—過去からの—

一、エジプトから脱出したイスラエル人は、パレスチナに着くまで、長い荒野の旅をしなければなりません。彼らはその間、ずっとテントで生活しました。神はイスラエル人を愛されたので、彼らと親密な関係をもちたいと願われました。そこで神は、ご自分の住まわれるテントを彼らの真

ん中に置くことと、人々がそのまわりにテントを張って住むことを求めたのです。こうして、神はそのテントに来て住まわれ、荒野を行く間いつも彼らとともにいて、彼らを守り、導き、祝福されたのでした。

**教えの適用** 神はイスラエルを愛したと同様に私たちをも愛しておられます。神は私たちを導き、私たちが世を去るまで、ともに旅をしてくださるのです。

二、その後も神は人々の中にあつて、数多くの家に住まわれました。ソロモン王の神殿（Ⅰ列王記六（七章）、エズラとネヘミヤが建てた神殿、主イエスがこの地上におられたとき行かれたり教えられたりした、ヘロデ大王が建てた神殿などです。主イエスは神殿を愛して「わたしの父の家」（ヨハネ二・16）と呼ばれました。主は神殿を汚すことを絶対に許しませんでした。

**教えの適用** 主イエスは天をも「わたしの父の家」（ヨハネ一四・2）と呼ばれました。ですから、みごとに色彩で彩られ、金や銀を用いて造られた幕屋は、私たちが天国の美しさを理解するのを助けてくれます。神はいつの日か、天にあるご自分の家に私たちを連れて行ってくださるのですが、「すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行なう者は、決して都にはいれない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、はいることができる」（黙示録二一・27）と警告しておられます。

## 中心的な教え

### — 現在と将来のための —

一、比較 新約聖書がこの時代に対して強調しているのは次の点です。

「いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。」(使徒七・48)

今日、神が住まわれる所は、

(a) 神によりたのむ人の心の中です。

主イエスは、「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」(ヨハネ一四・23)と言われました。

使徒パウロはコリントに住むクリスチャンにこう言いました。「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」(Iコリント六・19)

**教えの適用** 主イエスは私たちの心の中にご自分の住まいを作りたいと望んでおられます。しかし、無理に心の中に入ろうとはなさいません。主に入っていただけならば、私のほうから戸をあけて入っていただく必要はないのです。主は、「見よ。わたしは、戸の外に立ってたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食



事をし、彼もわたしとともに食事をする」(黙示録三・20)と言っておられます。

(b) クリスチャンが主イエスの御名においてともに集まる所です。

主イエスは言われました。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ一八・20)

**教えの適用** 私たちはたえずクリスチャンたちとともに集まって、祈りと賛美をささげる機会をもつべきです。「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合ひ、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」(ヘブル一〇・25)。

二、主イエスは、弟子たちと別れて天にお帰りになるとき、「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」(ヨハネ一四・2〜3)と言われました。

**教えの適用** 神は私たちが永遠にみそばにいることを望んでおられます。私たちが今、キリストのために心の中に住まいを作るなら、主は、再び来られるとき、天にある父の家に私たちを連れて行

ついでにちるのひな。